

5年 音楽科学習指導案

授業者 山村 光稀

1. 題材名 「歌声に思いをのせて～Over The Rainbow～」（歌唱）
教材名 「Over The Rainbow」（ミュージカル オズの魔法使いより）

2. 題材の目標

- 曲想と音楽の構造や歌詞の内容との関わりを理解し、曲の特徴を捉えて思いや意図に合った表現をするために必要な技能を身につける。 [知識及び技能]
- 場面の様子や登場人物の心情を想像し、選んだ登場人物にふさわしい歌い方を考え、どのように表現するかについて思いや意図をもつ。 [思考力、判断力、表現力等]
- 自分の思いを歌で表現する学習に主体的に取り組み、ミュージカルの音楽に親しもうとしている。 [学びに向かう力、人間性等]

3. 子どもと題材

本学級の子どもは、物事に対して自分なりの思いや考えをもつことができる。学級のめあてを決める際の話し合いでは、学級委員があらかじめ考えて提案しためあてに対して、一人ひとりが考えをもって話し合いに参加する姿があった。そして、その後の様々な活動において、学級のめあて「5-2で仲良く協力して、きぼうの種を楽しく育てよう」をもとに話し合う姿が見られた。めあてを決めることで、全員が一緒の方向を向き、話し合いを進めることができている。一方で、運動会のリレー練習では、意見が分かれ対立するという場面があった。練習を進めていく中でバトンパスがうまくいかない状況が生まれた際に「チームを変えたい」という思いをもった子どもと「このままのチームでバトンパスを極めたい」という思いをもった子どもで、それをぶつけ合った。初めは互いに自分の思いを優先し、相手の思いを批判する子どももいたが、学級で話し合いを進めていくうちに、チームを変えた時のメリットと変えなかった時のメリットを出し合いながら、学級としてどちらの選択をした方がタイムが良くなるかという議論になった。そして「変えたチームで走ってみてから決めてはどうか」と新たな考えを提案する子どもが表れ「学級にとってどのチーム編成がよいかを試す」という同じめあてを共有した上で練習を進めていった。

このように、めあてを共有することで一人ひとりがそのめあてをふまえた思いや考えをもち、話し合いに臨む姿が多く見られる。その一方で、どの話し合いにおいても全体の前で発言する子どもは少数であり、それ以外の子どもは近くの友達と共有したり多数決で意見を表出したりすることにとどまっている。3年生、4年生と2年間同じメンバーで過ごしてきた子どもにとって久しぶりのクラス替えによってできた学級は、まだ学級の雰囲気づくりや関係づくりの途中である。そのため、自分を表現することへの恥ずかしさや不安な気持ちを強く感じている子どももいるだろう。一人ひとりの個が集まってできたものが集団であり、個が力を發揮すると集団としてさらに大きな力を発揮することができる。集団として大きな力を発揮するためには、個の思いや考えを出し合ったり、それらを認め合ったりすることが必要である。だからこそ、もっと全体の前で表現したり相手を受け入れたりしてほしい。さらに、みんなで一つの方向に向かうことを大切にしている子どもに、一人ひとりが自分の思いや考えを伝え合うことによりよい集団がつくられるという実感と、思いや考えを表現することへの自信をもってほしいと願っている。

今回の題材では、ミュージカル音楽を扱う。ミュージカル音楽とは、歌、ダンス、演技を組み合わせた舞台芸術であるミュージカルの中で、物語の展開や登場人物の心情を表現するために用いられる音楽である。歌唱の活動において、曲に対する自分の思いを歌声にのせて表現することは容易ではない。しかし、ミュージカル音楽には、物語に出てくる楽曲を歌う登場人物の心情を想像し、その登場人物になりきって歌うという特徴がある。自分の思いや考えをもつことができる子どもは、その特徴によっ

てどのように歌うかについて思いや意図をもちやすくなるだろう。さらに、登場人物になりきって歌うことで思いを歌声で表現しやすくなるだろう。

これまでの歌唱の授業では、歌詞や楽譜から分かることをもとに自分の思いや意図をもち、それを全体で共有しながら一つのものをつくりあげてきた。そのため、自分と相手の思いや意図が異なった際には、どのように歌うかについて互いの思いを擦り合わせたことで、自分の思いとは異なる思いで表現することもあっただろう。しかし、今回の題材では、一人ひとりがそれぞれの役を担当し、役になりきって歌う。役やその解釈は人によって異なり正解はないため、どんな思いを届けたいかを一人ひとりが考え、そのまま表現することができる。役やそれによる歌い方が異なることで生まれる表現は、より個性が發揮されたものとなり、楽曲を魅力的にしていくだろう。つまり、自分の思いや考えを表現することが集団での表現をよりよくすることにつながるのである。これらのこと経験した子どもは、自分を表現することに価値を感じるだろう。そして、それは表現することへの自信につながるはずだ。これによって、普段の生活でも自分を表現することに挑戦していってほしい。また、自分の力を最大限に發揮し、集団としての力もこれまで以上に発揮していってほしいと考えている。

4. 本題材における『その子らしく学ぶ』

本題材の導入でミュージカル「オズの魔法使い」の一部を観た子どもは、歌って踊ることで物語を開ける登場人物たちの様子に興味を示し「ミュージカルっておもしろそう」「自分たちでもできるかな」と心を躍らせるだろう。その後、劇中歌として歌われる「Over The Rainbow」の楽譜が配られると、自然と口ずさみ練習し始めるだろう。そして「うまく歌えるようになりたい」「さっき見た映像みたいに役になりきって歌ったら面白そう」と歌への思いをもち始めるだろう。

「Over The Rainbow」の歌詞の意味や登場人物の性格を読み取った子どもは、登場人物の心情を考えながらどのように歌つたらいいか考え始めるだろう。主人公であるドロシーについて考えた子どもは「家に帰りたい」という願いを伝えるために、強弱に気をつけて歌いたい」と思いや意図をもって練習するだろう。木こりについて考えた子どもは「ドロシーみたいなやさしさがほしい木こりは、歌い方も優しくなると思う。だからゆったりとしたテンポで歌いたい」とやさしさと速度を関連させていくだろう。さらに、それが役になりきった歌い方を考えていくことで、自分の思いや意図を他者に伝えたり、他者の思いや意図にふれ、登場人物の心情をより鮮明に理解していったりするだろう。それとともに「どのように歌つたら気持ちが伝わるか」という問い合わせに対して、様々な音楽を形づくっている要素と関連させながら歌い方の工夫を考えていこう。

自分の選んだ役になりきった歌い方を考えた子どもは、実際に歌ってみたらどうなるかと同じ役を選んだ友達と一緒に試し始めるだろう。自分たちの歌声を聴くために録音したり、何人かに分かれて交互に歌ったりしながら、思いが伝わる表現になっているかを確かめることもあるはずだ。その際、自分の目指す表現と録音された歌声に違いを感じた子どもは、どうすればそれに近づけることができるか試行錯誤し始める。強弱に着目した子どもは「3番を大きくしようと思って歌つたけどあまり大きくなっていない。1番と2番の人数を減らして3番を全員で歌ってみるのはどうだろう」と考えたり、声色（音色）に着目した子どもは「ライオンは最初勇気がもてなかつたけど、だんだん勇気がわいてきた感じを伝えたいから、最初は弱々しい歌声で歌ってだんだん力強い歌声に変えていたらどうかな」と考えたりして、自分の歌声を録音し、歌声の変化を追究し始めるだろう。さらに、それぞれの役になりきったグループの歌を互いに聴き合うことで、登場人物の心情を伝えるための工夫に気付き「ライオンの勇気がある感じが歌声から伝わってきた」「木こりのやさしさを表すために速度を変えているところがよかったです」と互いの工夫のよさを伝え合うだろう。

題材の終盤では、全員で歌唱する。それぞれの登場人物の心情や性格を考え、役になりきって歌ってきた子どもは、全員で歌う際も自分の選んだ役として歌い始めるだろう。これまでの合唱では「合わせる」ということを意識してきた子どもにとって、役になりきって歌う活動は「バラバラな感じがする」という印象をもつかもしれない。しかし、それでも音楽が成り立つというミュージカル音楽の魅力を実

感し、曲に対する思いやそれぞれの役に合わせた歌い方の工夫があると、表現方法がバラバラであっても気持ちが伝わる歌になるという新たな知識を獲得し、歌の面白さや魅力を感じていくだろう。そういったことを感じた子どもは、人とは違う自分の思いや考えも周りに表現していくことで、集団をよりよくしていくことを実感するだろう。これらの活動を通して、一人ひとりが集団をつくっている大事な存在であるということに気付き、自分の思いや考えを表現することに自信をもつことを期待する。

5. 題材構想（全7時間扱い／本時は第④時）

＜教師の投げかけ＞ 子どもの表れ 最終時における子どもの表れ

○教師の働きかけ

① < ミュージカルってなんだろう >

- ・私、この前ミュージカルに参加したよ
- ・友達のミュージカルを観に行ったことがあるよ
- ・歌ったり踊ったりする劇のことだよね
- ・劇団四季とかもミュージカルになるのかな
- ・言葉は聞いたことあるけれど実際に見たことはないなあ

< ミュージカルについて知ろう >

- ・セリフと歌が一緒になっている感じがしたよ
- ・役になりきっていたから見ていて面白かった
- ・今回は一部だけだけど、全部見たいなあ
- ・自分たちがつどいでやってきた劇とは違うかも
- ・ミュージカルの中で流れていた曲を聴いたことがあるよ

< Over The Rainbow を歌おう >

- ・最初のところは聴いたことがあるから歌えそうだよ
- ・この前歌った「花のおくりもの」とはまた違うきれいな曲だね
- ・みんなで合わせて歌ったらきれいな感じがする
- ・くり返しが多いから歌いやすそう
- ・もっとうまく歌えるようになりたいな

② < 歌詞から分かることはなんだろう >

- ・「虹」っていうキーワードから希望みたいなイメージが伝わる
- ・もともと英語の歌詞だったものが日本語になったんだね
- ・物語の登場人物はどんな気持ちで歌っていたんだろう

< ドロシーの気持ちになって歌ってみよう >

- ・ドロシーは「家に帰りたい」という願いをもっていたね
- ・「夢が叶いますように」ってお願いしながら歌ったのかも
- ・未来とか希望みたいな明るいイメージをもっていたと思う

- ・気持ちを伝えるには強弱に気を付けて歌つたらいいと思う。特に3番に向かって盛り上がるようなくレッシュンドを意識して歌いたいな
- ・歌詞をセリフみたいに歌いたいから少しゆっくり歌つたらどうかな。速度を少しずつ変えて歌ってみて、もとの歌と比べて聴いてみたいな

○ミュージカルを身近に感じることができるように、ミュージカルを知っているか、参加したことがあるかを問う。

○ミュージカルの特徴をつかむことができるよう、物語の一部を集めたダイジェスト映像を視聴する。

○映像を観て感じたことを共有できるように、近くの人と話し合う時間を確保してから全体共有する。

○カーテンコールで演者が全員で歌うイメージがもてるよう、一人ずつ歌う人数が増えていく映像を視聴する。

○無理のない歌声で歌えるように、ハ長調に編曲した楽譜を用意する。

○歌詞に着目して考えることができるよう、歌詞カードを準備する。

○登場人物がどのような気持ちで歌っていたのかを意識できるように、まずは全員で主人公であるドロシーの気持ちや性格などを考える時間をとる。

○登場人物になりきって歌うには、どのような工夫が必要か音楽を形づくっている要素と関連させて考えることができるように、ホワイトボードに掲示する。

- ・気持ちがより伝わるように曲に合わせて振りを考えてみるのはどうかな。みんなでダンスみたいにしても前向きな気持ちが伝わりそう

- ・気持ちを伝える歌って難しいな。でもミュージカルの動画の人は表情が豊かで見ていて面白かったから表情に気をつけて歌ってみようかな

③ < 他の登場人物はどんな願いをもっていたのだろう >

(かかし)

- ・からすにばかにされないように、知恵のつまつた脳みそがほしいという願いをもっていたね

(木こり)

- ・心をなくしてしまったから、ドロシーみたいなやさしさがほしいという願いをもっていたよ

(ライオン)

- ・ライオンって強くてかっこいいイメージだけど、このお話のライオンは弱いものいじめをする臆病なライオンだったね。勇気がほしいっていう願いをもっていたことが分かったよ

④ (本時) ⑤ < 役になりきって歌ってみよう >

- ・それぞれの登場人物がどんな願いをもっていたかを意識して歌いたいな
- ・思いが伝わるように歌うにはどうすればいいんだろう

(ドロシー)

- ・元気な女の子っていうイメージが伝わるように、リズムが跳ねるように歌ってみるのはどうかな
- ・最後が一番盛り上るよう、強弱を意識して歌いたいな

(かかし)

- ・最初は動かずに歌ってみて、曲の途中から動き出すっていうのはどうかな
- ・動きだけじゃなくて、声の音色もだんだん元気になるように変化させて歌ってみよう

(木こり)

- ・やさしさが伝わるようにテンポをゆっくりにして歌ってみるよ
- ・ゆっくりにしなくても声の出し方や表情でやさしさって伝わらないのかな
- ・同じ役の人と一緒に歌ってみると自信をもって歌えるな
- ・自分では歌えているつもりだけど、録音して聴いてみると伝わりにくい部分があるからなんとかしたい

(ライオン)

- ・ライオンがだんだん勇気をもっていく様子が伝わるようにだんだん声を大きくしていく歌い方にしてみよう
- ・歌い始めは座っていて、3番で立ち上がるはどうかな

- 「強弱」や「速度」だけでなく「動き」や「表情」にも目を向けられるように、必要に応じて全体に意見を共有する。

- 他の登場人物の気持ちをそれぞれに考えることができるように、前時までに確認したドロシーについてをまとめ、掲示する。

- 登場人物がどんな願いをもっていたかを確認することができるよう絵本を置いておく。

- どの役になりきって歌うかを次時で選ぶができるように、やりたい役を決めておくよう伝える。

- 周りをよく見て行動することができるA男は、役を選ぶ際に、自分のやりたい役よりも役を希望する人数や仲の良い友達の希望に合わせて役を選ぶことが予想される。A男をはじめ、自分の思いを出せない子の思いも優先して役を選択できるように、ある程度の人数のばらつきは許容することを事前に伝える。

- それぞれの役になりきった歌い方を考えることができるように、分かれて活動する場を設ける。

- 自分たちの歌を客観的に聴くことができるよう、iPadを使用して録音や録画をしてもよいことを伝える。

- 速度を変えて歌いたいという思いをもった子どもが自由に速度を変えて歌うができるよう、Garage Bandの音源を用意しておく。

⑥ < グループに分かれて歌ってみよう >

- ・まずはみんなで歌ってみてどんな感じかつかもう
- ・歌うテンポはどのくらいにすればいいんだろう
- ・合唱とは違って、みんなで歌い方をそろえてしまうとそれぞれの思いがうまく伝わらない気がする
- ・身振り手振りも入れながら役になりきると、見ている人に思いが伝わる気がするよ
- ・自分たちの歌を録画してどんなふうに見えているか確かめよう

⑦ < 互いの歌を聴いてみよう >

- ・同じ役になりきって歌っているのに歌う人によって聴こえ方が違うように感じる
- ・それぞれになりきって歌っているから合唱とは違った面白さがある
- ・全員で合わせたらどんな歌になるのかやってみたい

< 役になりきって全員で歌おう >

- ・これまで歌ってきた思いを大切にしながら歌いたいな
- ・役になりきって歌うって楽しい
- ・歌の途中で目を合わせたり振りをそろえたりすると心が一つになっている感じがするよ
- ・最初に歌った時よりみんなの思いが伝わる歌になったと思う
- ・「オズの魔法使い」のお話をイメージしながら歌っているから別の役と一緒に歌っても一体感がある気がする
- ・歌うことが好きになってきた

- ・思いを込めて歌うって楽しいな
- ・それぞれの役になりきって歌うことができた
- ・たくさん練習してきたから自信をもって歌えるようになった
- ・最後にみんなで合わせた時にも一人ひとりの思いが伝わる歌になっていたと思う
- ・一人ひとりが考えて表現したから5の2らしい歌ができた
- ・もっと他の曲も歌ってみたい

○歌に自信をもち始め、誰かに聴いてほしいというグループが出てきたら、全体の前で歌う時間を設定する。

○登場人物の気持ちを音楽を形づくっている要素と関連させながら考えている子どもを全体の前で紹介する。

○互いの歌のよさを分かりやすくするために、それぞれの歌い方の工夫をロイロノートで共有する。

○歌を聴いて感じたことや気付いたことを共有することができるよう、何人かに感想を求める。

○役になりきり自信をもって歌うことができるよう、同じ役を担当した人と近くの場所で歌えるよう並び方に配慮する。

○自分たちの歌を客観的に聴くことができるよう、歌っている様子を録画する。